

# 彩の歳時記

平成 二十七年 一月

未

君がため 春の野に出でて 若菜摘む 我が衣手に 雪は降りつつ

「あなたのために長命の象徴である若い命に満ちた早春の若菜をつみとる私の衣の袖に白雪が降りかかっています」

「百人一首で好きな歌」上位に位置する歌。作者の光孝天皇（830～887）は光源氏のモデルの一人とも言われます。雪の間から芽を出した**若菜**を摘む日本古来の風習「**若菜摘み**」と中国の年中行事「**人日**」（人を殺さない日）に作られる汁「**七種菜羹**（ななしゅさいかん）」が結びついたのが「**七草粥**」。春の初めに生え出る**若菜**の持つ**生き生きとしたエネルギー**をわが身にうつしとり、長寿を願いつつ食し、今年も澁刺と暮らしてゆきたいものです。



一月の暦 睦月 正月 親族一同集って宴をする「**睦び月**」。睦ぶは「仲良し」の意。

一日 **元旦**（**がんとん**） 国民の祝日。

二日 **初夢** 二日の夜、見る夢。七福神の乗る**宝船**の絵に枕の下に眠ると良いとされている。 **四方拜** 早朝に天皇陛下が伊勢の神宮、山陵および四方の神々をご遙拝する一年最初の**宮中祭祀**。天皇によって継承される宮中祭祀は多く、大祓まで年間二十以上に及ぶ。



## 新年一般参賀

午前九時半～午後二時十分に成年の皇族方が宮殿で参賀を受けられる。

## 第九一回東京箱根間往復大学駅伝競走

（シード校）十校と2014年10月の予選会通过校十校、関東学生連合チームを合わせた全二十一校が参加。昨年は一位・東洋大、二位、駒沢大。 **五日 官庁御用始め** 1873(明治)年から官公庁は12月29日から1月3日までを休暇と定められているが四日が土・日曜の場合は五日の月曜日になる。

六日 **小寒**【二十四節気】寒さがまだ最大でなく「寒の入り」。年賀状を出し忘れたら「寒中見舞い」を。

「小寒の氷、大寒に解く」といい大寒よりも寒いこともあり、これからが最も寒い時。

七日 **七草** 前夜に「七草なずな唐土の鳥が日本の国に渡らぬ先にストントン・ストントン」と歌いながら包丁で叩き、当日の朝に粥(かゆ)に入れ、一年の邪気を払う。



八日 **正月事納め・左義長**（さぎさき） 正月の行事・飾りなどを終える。十日や十五日に行う地方も多い。

十一日 **鏡開き** 元は武家の行事で、具足(鎧や兜)に供えた餅を雑煮などにした際、餅は刃物で切ると切腹のようだと手や木槌(きづち)で開くように割ったことに由来。



十二日 **成人の日** (第二月曜日) 大人になったことを自覚し自ら生き抜こうとする青年を祝いはげます。十四日 **歌会始** 今年のお題は「本」、昨年は「静」。前年の天皇陛下の詠歌は

**慰霊碑の先に広がる水俣の海青くして静かなりけり 天皇陛下**

十五日 **小正月** 元日の大正月に対して。忙しかった主婦をねぎらう意味で「女正月」とも。十七日 **阪神淡路大震災記念日** 早や二十年の歳月が。1995年、兵庫県南部を中心にM7.3の地震が発生。死者6300人、30万人以上の方が避難所に。

二十日 **大寒**【二十四節気】厳寒の中にも春の兆しが。 落のとう花咲く【七十二候】

一月の歌 たきび 詞 巽聖歌【1905～1973】 曲 渡部茂【1912～2002】

昭和十六年十二月八日の太平洋戦争開戦により物心両面からしめつけが厳しくなる中、翌九日と十日、NHKラジオ「幼児の時間」で初めて放送されたが「焚き火は敵機の攻撃目標になり、落ち葉は風呂を炊く貴重な資源」と三日間の放送が十一日は戦時番組に変更された。当時、巽が住んでいた中野区上高田にあった旧家・鈴木家の曲角の垣根が歌のモデルで「たきび」発祥の地の説明板がある。



たきび かきわの垣根のまがりかど たきびだ焚火だ落葉たき あたらうよ あたらうよ 北風ひいぶう吹いている ささんか山茶花さいた道 たきびだ焚火だ落葉たき あたらうよ あたらうよ 霜やけておてがもつかゆい こがらし木枯しさいわい道 たきびだ焚火だ落葉たき あたらうよ あたらうよ 相識しながら歩いてく